

「糖尿病網膜症眼底における高血圧性所見の存在」 —線状出血と静脈の蛇行・怒張・口径不同・交叉現象—

Presence of Hypertensive Findings in the Diabetic Retinopathy Fundus

土屋 徳弘
表参道内科眼科

【目的】 糖尿病診療において眼科への眼底検査依頼は必須である。その場合眼科医は「糖尿病網膜症の有無」以外の所見は慣習的に内科医には報告しない。しかし糖尿病網膜症の眼底出血や静脈変化の観察により、高血圧性変化が認められる場合がある。「線状出血」や「網膜静脈の怒張・蛇行・口径不同・交叉現象」は糖尿病だけでは認められず、仮面高血圧や治療不十分な高血圧が疑われる。糖尿病網膜症眼底における線状出血や網膜静脈変化の高血圧精査の指標としての有用性を検討した。

【方法】 糖尿病網膜症眼底に「線状出血」、「網膜静脈の怒張・蛇行・口径不同・交叉現象」を認めた6例において高血圧に関し検討した。

【結果】 「線状出血」、「網膜静脈の怒張・蛇行・口径不同・交叉現象」を眼底に認めた症例では診察室血圧高値又は家庭血圧高値の高血圧を認めた。

【考察】 糖尿病網膜症の病変部位は毛細血管が存在する網膜深層であり、網膜深層では神経線維走行が垂直方向なため、眼底出血は点状・しみ状を呈す。線状出血は神経線維走行が水平方向である網膜浅層で生じ、網膜浅層の血管は網膜細動脈であり糖尿病性変化ではなく高血圧性変化と考えられる。また網膜細静脈の変化である怒張・蛇行・口径不同・交叉現象は、毛細血管が主病変である糖尿病網膜症だけでは生じない。糖尿病網膜症における「線状出血」、「網膜静脈の怒張・蛇行・口径不同・交叉現象」の存在は高血圧精査の指標となる。